



# サフラン便り

第40号 21年8月15日発行

発行:佐賀県薬剤師会女性薬部会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931

FAX:0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron/>

## < 2009年度 日本女性薬剤師会学術講演会報告 >

日時:6月21日(日)10:00~16:00

場所:星薬科大学 メインホール 東京都品川区荏原2-4-41

研修内容: **新しい医療安全行政の展開** 厚生労働省 大臣官房審議官 岸田修一先生

### がん予防 - 現状と展望 -

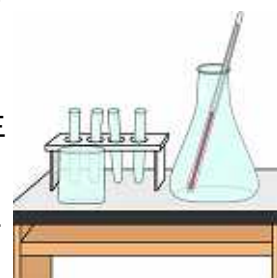
国立がんセンター がん予防・検診研究センター 予防研究部部長 津金昌一郎先生

### アルツハイマー病はアミロイドが原因で起こる

大阪市立大学院医学研究科 老年医科学大講座 脳神経科学教授 森 啓先生

### 聴けばガッテン! 認知症予防 - 認知症の正しい理解と医療・ケア・予防のポイント -

群馬大学医学部保健学科教授 山口 晴保先生



### 参加者報告

\* オーガナイズする立場から・・・タイトル変遷として女性医療 性差医療 小児医療 男性医療 アンチエイジング 加齢の医学という流れに沿ってきました。もう行きつくところまで来たという感じで、来年の新たなテーマを検討中です。受講者アンケートから「他にないテーマがうれしい。」「臨床医以外の理学博士の講義、「アルツハイマー病はアミロイドが原因」は大変貴重でした。」といった声が聞かれてほっとしています。(鳥栖三養基支部 徳淵昭代)

\* 星薬科大学と言えば、ショートショートの神様星新一の父が設立した学校ということで、かつて、ほとんどの作品を読破した私にとって、是非行ってみたい大学でした。800種の有用植物が栽培されている薬用植物園は手入れもいきとどいてすばらしいものでした。北里大学の小宮山貴子先生のお話で、アメリカの薬剤師の現状を知ることができました。血糖、血圧を薬剤師が指導しながら患者自身が自己測定し、インフルエンザの予防注射は薬局で薬剤師が行い、ワーファリンの用量を検査データを検討し決定するなど。日本でも薬剤師の力が発揮できる場が広がるよう頑張りたいものです。(鹿島藤津支部 池田知子)

\* 「一緒にのりきろう! 加齢の医学」というテーマに高齢化が急速に進む現在、興味を持って参加しました。高齢者は種類多い薬の服用で副作用が増加・・・副作用の発見は患者に対しての助言で薬剤師による発見が多い。薬剤師の活躍する場面は多々ある。

副作用情報を集め、被害拡大の防止へ貢献する。情報の充実として

医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ <http://www.pmda.go.jp/>などを

利用され、患者さんへの情報発信の強化に努めて欲しい・・・等々、

奮起する講演ばかりでした。(佐賀市支部 福島あさ子)

\* 昨年に続いて参加させていただきましたが、雨にもかかわらず今年も熱気の中での研修会でした。厚生労働省からの話も分かりやすく聞くことができました。二講目のがん予防の話は、一般的に言われているリスクや、予防についての最新のエビデンスに基づく話でありました。三講四講の認知症の話は、アミロイドの話に始まり、予防、ケアにわたりさまざまな話を聞かせてもらいました。県薬においても多様な研修に参加していますが、1年に1回くらいは、中央に出て研修を受けモチベーションアップに役立てたいと感じました。(唐津東松浦支部 杉岡祐子)



**研修会案内** 興味のある方はぜひご参加ください

\* 日本女性薬剤師会九州ブロック研修会

日時: 9月12日(土) 午後3時30分~6時

場所: 熊本県薬剤師会館 多目的大ホール 熊本市萩原町10番6号 TEL: 096 - 370 - 5800

内容: 新しい作用機序の抗うつ剤(リフレックス錠) 明治製菓株式会社

「いのち・健康・くらし」長崎国際大学 学長 前熊本県知事 潮谷 義子先生

\* Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2009

日時: 10月15日(木)~18日(日) 場所: 九州大学医学部 百年講堂

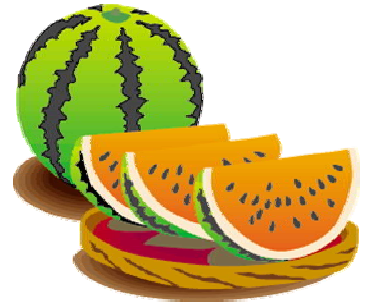
内容: Symposium: ・Solution to Novel Drug Delivery System

・Target - Based Drug Discovery

\* 第19回日本医療薬学会年会 「医療薬学の創る未来 - 科学と臨床の融合」

日時: 10月24日(土)・25日(日)

場所: 長崎ブルックホール 問合せ先: 長崎大学医学部・歯学部付属病院薬剤部



<佐賀県女性薬剤師会の歴史>

会史投稿文より(その2)

元佐賀県薬剤師会副会長 宮地信子

女性薬剤師会設立のこういう全国的な動きの中で、佐賀県薬剤師会でも新しく女性薬剤師部会を設立することになり、昭和28年8月に(全国的も割りに早い設立)当時の江口虎三郎佐賀県薬会長、徳永文平、川内一男副会長、それと女性薬剤師の山中貞子、武田美代のお世話で奥平勢子女性薬会長、山中貞子副会長で佐賀県女性薬剤師会が発足した。昭和35年から37年は片桐綾子会長と交代したが、再度昭和38年から54年まで通算22年間息の合った奥平、山中の名コンビで佐賀県女性薬剤師会のお世話を引き受けられた。無から立ち上げることはいろいろご苦労も多かったことと推察される。始めのうちは参加することによりいろいろ教えられたり理解できたりで、日本女性薬剤師会西部連合会(昭和28年から41年までは日本女性薬剤師連合会は東西にわかれていた)には出来る限り出席し、その当時は寝台車など考えられない頃で遠方での開催の折など家族の方が始発駅である長崎県佐世保まで行って座席を確保し、佐賀駅で交替して出席されたとか本当にご苦労さまでした。

<地球にやさしい薬局を目指して>

医薬品メーカーは製品パッケージ(紙箱)の表面加工に塩化ビニル含有成分を使用しないポリプロピレンに変更し、焼却処理にダイオキシンの発生を抑制する方向で進められています。また製品パッケージは古紙80%以上の再生紙を使用し環境負荷の低減につとめています。塩素系プラスチックを分別する意図は燃やすと塩化水素や塩化ガスを発生して焼却炉も傷めることになります。塩素系材料を燃やすべきではありません。その為に大事なものは、ゴミを出さない生活スタイルに変えていくことです。

お薬を患者様にお渡しする時、どれくらいの方がマイバックを持ってみえるでしょうか。「薬を入れる袋お持ちですか?」と一言声掛けをされてますか? レジ袋1枚で60gのCO<sub>2</sub>削減に相当します。武雄杵島支部のサン薬局では手作りのリユースお薬入れ袋を作成してお渡ししています。手書きのイラストの入った何回も使えるバックです。ご参考まで。

<マイバック標語> 佐賀県主催の「マイバックキャンペーン」に女性薬部会から応募しました。その一例です。

・マイバック 未来に夢をつめこんで ・子や孫の命守りたいマイバック・マイハート マイハンド マイバック

・いらぬは 言える心がエコ心・エコバック地球の笑顔が見えてくる ・風呂敷がいつの間にもやらマイバック etc

ちょっと一言

薬剤師の大先輩であり、すでに男性平均寿命を超えたお二人の運転する車に同席しました。道中一時間の会話には、途切れがなく、興味津々でした。ずっと「食」に関する話題。料理の作り方や食する際の工夫や、介護とは無縁の一人暮らしの生活の知恵など。よくよく聴いていると、やはり子供のころからの生活習慣が基盤にあるようです。母親から受けたものは、ずっとその人の人生に関わっているのだと感じました。実学の食育講義に美味そうなレパートリーの数々。ごっつあんでした。(島田)